

東日本大震災を乗り越えて、
前に進もうとする三陸の人たちからの
メッセージを届けます。



東北地方では、獅子舞を権現様と呼ぶことが多い。重機に取り付けている大権現の獅子頭は、平成8年(1996)、綾里大権現保存会が製作。以来、会員の協力のもと、「踊る大権現」を披露してきた。佐々木さんは、71歳の今も元気に重機を操っているが、「後継者を募集中」だといふ。

綾里大権現保存会
岩手県大船渡市三陸町綾里

悪魔退散、無病息災などを願
い、勇壮に舞う「権現様」。その
舞い手だった佐々木昭吉さんは、
権現様の獅子頭を重機のハンド
ルに替えて、2メートル四方、
200キロの巨大な獅子頭を操
る。ダイナミックかつ流麗な動き
は、まるで権現様が自ら舞って
いるかのようだ。

大船渡市綾里地区には、5年
に1度行われる祭りがある。10
の集落ごとに10〜15人の舞い手が
出て、それぞれの権現舞を披露
する。地域の大切な権現様のシ
ンボルの存在として作られたのが
大権現である。「いたずら心から
動かしてみようかなと思つて」と
笑う佐々木さん。「権現様の動き

ができるよう、重機を改良した
んですよ」という言葉から、熱
意のほどが伝わってくる。これま
で、大船渡市の夏祭りや地域の
元旦祭、豪華客船の寄港歓迎行
事など、さまざまな場で勇姿を
見せてきた。

しかし、震災により、状況は一変。
2年余り経つた今でも、「まだ、踊
りどころではないから」と、地
域の祭りは行われていない。それ
でも、4月の三陸鉄道南リアス
線の運行再開の日に、綾里駅で
舞つた。「喜ぶ顔が見たいからね」と
話す佐々木さん。地域の祭り
は3年後に開催予定だ。「踊る大
権現」は、きつと皆の笑顔を誘
うだろう。

踊る大権現の操縦士

佐々木昭吉
さん

喜ぶ顔が見られるから
出かけていくのです

